

令和 7 年 7 月 14 日

会 議 録

審 議 会 等 の 名 称	令和 7 年度 第 1 回 函南町歯と口腔の健康づくり推進委員会
庶務を担当する所属	健康づくり課
会 議 の 開 催 の 日 時	令和 7 年 7 月 2 日（水） 午前・ 午後 1 時～ 2 時
会 議 の 開 催 場 所	函南町役場庁舎 3 階 中会議室
出席者（職・氏名）	函南町歯と口腔の健康づくり推進委員 15 名 委員長 木ノ内 聡 副委員長 土屋 清隆 委 員 杉本 秀樹 柏木 敦博 白井 博子 鈴木 俊一 原田 智子 日吉 智 戸田 公子 渡邊 仁美 鈴木 美恵 西澤 愛 土屋 智美 長瀬 里子 佐藤 由美 事務局 厚生部長 加藤 裕一 健康づくり課長 田中 涼子 係長 峰村 佳菜子 主任保健師 渡邊 莉奈 主査 阿部 久美子 主任保健師 窪田 さやか
議 題	（１）令和 7 年度事業計画について （２）その他
審 議 内 容	（１）令和 7 年度事業計画について 【事務局】資料に基づき説明 【委 員】広報かなみ 10 月号に、子どもの内からの歯みがきの重要性に関する記事掲載を提案したい。 【委 員】発達障害児を見つける時期として、5 歳児健診は適切か。 【事務局】適切である。就学時健診で発達障害が見つかったても小学校入学までの間にフォローは困難。年中児に健診を実施することで、小学校入学までに必要な策を講じることができる。 【委 員】ブラッシング教室への栄養士の導入について詳しく聞きたい。 【事務局】“噛むこと”、よく噛むことで食べた物の栄養が

	身体の中に行き届いて、とても身体に良いという話をする上で、栄養士は適任である。 【委員】未受診の後期高齢者 4 割へのアプローチが課題であると思う。 【事務局】高齢者については、オーラルフレイル予防とは別に健康状態不明者への対策を実施している。 (2) その他 【事務局】広報かなみ 10 月号には、歯科医師の先生方、園の先生方のお力をお借りし、子どもたちの目を惹くような記事を掲載したい。また、記事は「歯と口腔の健康づくり推進委員会から皆さんへ」という形にしたい。 【委員】子どもの口腔機能発達障害についても掲載してもらいたい。 【事務局】掲載したい。今年度のふれあい広場でも記事を掲示できればと考えている。 【委員】“噛むこと”について、“かみかみ昆布”の活用はどうかと思った。 【事務局】現在は食べ物にかなり制限がある。親も一口大にかじり取って食べることを教えていない。 【事務局】園で食べさせていない物は、親も子どもに食べさせてはいけない物と思うかもしれない。 【事務局】体制を整えた場、町のブラッシング教室でよく噛む教室をやる等。また来年度考えていきたい。 【委員】手づかみ食べ等、訓練が必要である。 【事務局】食べ方を伝えていくことも必要であると認識している。 【委員】静岡県歯科医師会から、年齢別に食べ物と食べ方が掲載された冊子が出ている。保護者へ情報提供するのはどうか。 【事務局】保健センターでも活用していきたいと思う。 【委員】子どもの定期的なブラッシング教室は必要。また、広報 10 月号には様々な年代、歯科保健事業の実績を多く掲載していただきたい。 【委員】8020 達成者にコラムを書いていただくのはどうか。 【委員】発信者を変えるのは面白いと思う。 【委員】函南町は糖尿病の方が多い。食生活を見ると、砂糖が入っている食べ物が多いと思うがどうか。 【委員】健康診断を受けてもらえればと思う。遺伝もあるのでは一概には言えないのではないところである。 【事務局】いただいた意見を大切に、今後も様々な意見をいただきたい。 閉会
備	考 傍聴者 2 名